

# 浜松西高サッカー部 名将・池谷孝の追憶

浜西サッカー部の黄金期を築き、  
県西部サッカー文化に  
新たな文化を植え付けた

Takashi Ikegaya



## ゼロからのスタート

私が浜松西高に初めて赴任した当時、校風はまさに「文武両道」を体現するものでした。学業面では大学進学を目指しながら、スポーツ面ではバスケットボールや陸上、水泳、柔道などが全国レベルの実力を誇っていました。しかし、サッカー部に関しては、1956年の国体県予選を最後に低迷期が続いている状況でした。指導者が7年間不在で、練習用のボールもわずか4つ。そんな状況から、私はチームを立て直し取り組むことになりました。まさにゼロからのスタートです。最初に知り組んだのは、明確な最終目標の設定でした。私は赴任前から自身の目標を、全国レベルの選手とチームを育成し、日本を代表する存在にすることを決ましました。そこで、浜松西高のサッカー部の最終目標を「全国大会で活躍できるチーム作り」と定め、その達成に向けて、まずは県大会で成績を上げることが第一目標としました。

次に私が取り組んだのは、「トレーニングの質の見直し」です。どんなに優秀な素質や技術があっても、間違えた方法で練習を続けていけば全く意味がありません。正しく、質の高いトレーニングと努力の継続こそが、目標達成への最短ルートだと考えたのです。それからは、ミーティングなどを通じて、部員たちに私の考え方や、私がイメージしている目標を共有するように努めました。監督だけが上を目指していても、選手がそれを見守る方向を向いては前進できません。全員が同じ方向を見つめて、「よし、あそこを目指そう」と強い気持ちで走り出すことで、チームとしてゴールにたどり着けるのです。この強い気持ちというのが、私の教育テーマでもあり、それが「一流の人間、一流のサッカーマンを目指すこと」であり、「小さな結果を積み重ねること」の先の大きな目標と成果を手にする「こと」につながっていきます。

## オランダ遠征での思い

もうひとつ、私が考えたことは「チームが丸となって流す」こと。本物のサッカーに触れる必要がある、ということでした。そのため、可能な限り、強豪校と呼ばれるチームと練習試合をしました。公立高校のサッカー部としては珍しい海外遠征(オランダ2回、韓国1回)も実施しました。特にオランダのサッカーに関しては、オランダという国が持つ歴史的、構造的な革新性がそのまますべて表現されており、私自身も非常に興味を持っていました。そこで、自分なりにオランダのサッカーを研究し、オランダ式のトレーニングを積極的にチームに取り入れていきました。余談になりますが、1回目のオランダ遠征の際、現地の指導者からそのトレーニングで問題はないかと批判を押し付けていたことは、大きな自信になりました。しかもその指導者というのは、1988年のユロ選手権で優勝したオランダ代表において、名将ミケル監督の下でコーチを務められたライター氏だったのです。こうした取り組みの結果、浜松西高赴任から3年目にして高校選手権予選でベスト16に入るまでにチームは成長し、その後10年連続ベスト16(入り)、4年目にはインターハイ予選でベスト4となる準決勝に進出。その後も準優勝や3位を獲得するまでに成長しました。

## 基本原則と成功する選手の特徴

私は指導の基本原則としてTEACH「COACH」「MOTIVATE」「HELP」の4つを大切にしています。  
◆TEACH「徹底的に教えること」  
◆COACH「主体性を大事にしつつ選手自らが成長し、自分の世界を作る手助けをすること」  
◆MOTIVATE「選手のやる気に火をつけ、本気にさせること」  
◆HELP「人生における様々な場面で手助けやサポートをすること」

加えて、目標とするサッカーやその至るまでの道筋を文字、言語、あるいは視覚的な工夫を施して、チームに伝え、常に意識させてきました。哲学や目標、プロセス、指導の文字言語化可視化です。同時に、自分自身の指導者としての自己評価も欠かさないで進みました。トレーニング後には必ず指導を振り返り、選手に直接意見を聞くこともありました。指導者として「知らないこと」がないよう「知る」のは当然ですが、もし知らないとわかれば、それを素直に認めて学ぶ姿勢を持つことが重要だと考えています。

こうした教育の成果を通して、だんだんと「サッカーに本気で取り組む」選手が増えていきました。小粥(智浩)や渡辺(光輝)がその代表例であり、彼らが当時手にした「本気」こそが今の原動力となっていると思います。また、浜松西高での指導がそうであったように、選手の手を高く掲げるためにはグローバルな視点からの指導や情報提供も欠かせません。そうすることで、より高い目標を持つようになります。成功する選手にはいくつか共通する特徴があります。

- ◆ 良く指導者と出会っている。
- ◆ ボールを扱う技術と思考力がある。
- ◆ 明確な目標がある。
- ◆ サッカーを愛し、感謝の気持ちを忘れず、現状に満足せず、高みを目指し続ける。
- ◆ チャンスを逃さないアンテナを張っている。

## 全てはご縁とタイミング

思い返せば、私はこれまで様々なご縁とタイミングのおかげで、自身の思いを形にしてきました。公立高校の海外遠征という面では、旅の運営をしてくださった杉山政行さんなどは、表現は難しかったでしょう。また

た、国体でのコーチや監督の経験においては、山形国体で渡辺を、広島国体では岡本(淳)をそれぞれレギュラーに起用しなければ優勝することはできなかったと思います。内藤(康貴)や佐野(伸介)などは今でもサッカーに関わり続けており、本当に輝くと思います。もし彼らとサッカーを通じて出会っていなかったら、全く異なる人生を歩んでいたかもしれません。そう考えると、すべては人と人とのつながりが作ったご縁であり、それがジャストなタイミングであったからこそ成し遂げられたのです。

オランダのサッカー哲学には「良く指導者と良く選手の循環を作り出すこと」で、長期的な成功を掴むことができてきたということがあります。つまり、良く指導者が育てられた選手がやがて指導者となり、また良く指導者として新たな選手を輩出する。そんな循環を作ること、次世代にバトンを渡していくのです。いわばサッカー文化を醸成する考え方ですね。これにもう一つ、好例があります。インターハイ予選優勝時のストライカーだった小枝(小枝)の息子、小枝(翔太)が、現在、アンダー世代の日本代表として活躍しています。まさに循環が生まれてきているんですよ。このように、私がこれまで指導してきた幾多の選手たちが現在もサッカーに携わり、各所で指導者として活躍していること、息子の健太も指導者の道を進んでいること、そして彼らがサッカー文化の循環を作り出してきていることは、私にとって何よりの喜びです。ひょっとしたら全国各所でのこういう「循環」が私たちの夢でもある「ワールドカップ優勝」への鍵なのかもしれません。

## JFAプロライセンススコア

- 1990~2001 浜松西高 サッカー部監督 (インターハイ静岡県予選優勝1回、3位2回、高校選手権予選10年連続ベスト16以上)
- 1992 静岡県U18少年選抜コーチ (山形国体優勝)
- 1996 静岡県U18少年選抜監督 (広島国体優勝)
- 2003~2004 藤枝東高 サッカー部ヘッドコーチ (全国総体・全国選手権2年連続出場、東海総体2年連続優勝)
- 2004~2020 清水エスパルス アカデミーセンター長
- 2005~2007 JリーグU-15選抜コーチ・監督
- 2013~2014 JリーグU-16選抜コーチ・監督
- 2016~2020 静岡大学 サッカー部監督(客員教授)
- 2021 成都FAアカデミー(中国四川省)ユーステクニカルディレクター
- 2022 福島県サッカー協会FAコーチ
- 2023~2024 WEリーグ ちふれASエルフェン埼玉 トップチーム監督



## 活躍する 教え子たち 池谷チルドレンの 現在地

小粥 智浩  
流通経済大学  
スポーツ健康科学部 大学院  
スポーツ健康科学研究科 教授

渡辺 光輝  
(株)日立柏レイソル  
運営部 部長

岡本 淳一  
浜松開誠館  
中学校、高等学校  
サッカー部 コーチ

内藤 康貴  
浜名高等学校  
サッカー部 監督

佐野 伸介  
磐田東中学校  
男子サッカー部 監督

### サッカー企画シリーズ



WEB版はこちらから

激しく速く美しく  
静岡県立浜松西高等学校 サッカー部 OB会

浜松市中央区西伊場町3-1  
会長:飯田 末夫

建築用板硝子工事請負  
株式会社 北斗

浜松市中央区栄町303-22  
☎ 053-452-2607  
代表取締役:高木 孝英 (浜松西高35回卒)

TESS テスホールディングス  
https://www.tess-hd.co.jp/

【本社】大阪市淀川区西中島6-1-1 新大阪プライムタワー ☎06-6308-2794  
【東京オフィス】東京都中央区八重洲1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル ☎03-3548-8240  
代表取締役社長:山本 一樹 (浜松西高 高41回卒)

安全衛生保護具、ユニフォーム販売  
ikeda rubber  
有限会社 池田ゴム

浜松市中央区船越町6-24  
☎053-461-7628  
代表取締役:池田 宗高 (浜松西高50回卒)

社会保険労務士法人村松事務所  
株式会社浜松人事コンサルタント

浜松市浜名区本沢合829  
☎053-586-5318  
所長:村松 貴通 (浜松西高47回卒)  
特定社会保険労務士・MBA

eight works

エイトワークス会計事務所 高林祐介税理士事務所  
浜松市中央区三和町295-7 グリーンパーク102  
☎053-582-9536  
高林 祐介 (浜松西高 高53回卒 サッカー部OB)

警備業  
株式会社  
フロンティアール

豊橋市花園町 91  
☎0532-26-2035  
取締役会長:内藤 彰俊 (浜松西高 35回卒)

Oak Voice

浜松市中央区鍛冶町100番地の1ザサシヅ浜松中央館 B1F  
☎090-5150-4021  
代表取締役/アナウンサー:大久保 結奈

地域PR企画・製造・販売/販促品/企画印刷  
株式会社  
キャッツアイビー

浜松市中央区高丘東5丁目12-1  
☎053-522-7989

Sai

graphic design works

浜松市中央区中央1-18-4 ウィステリアパーク302  
☎053-458-2292  
伊藤 博敏

ソニックシステム 株式会社  
Sonic System

浜松市中央区新津町252番地  
☎053-411-5220  
代表取締役:杉山 智彦

dla3inc.  
株式会社 デアス  
翻訳・通訳・多言語動画制作

浜松市中央区横志町1415  
☎053-433-6108  
代表取締役:丹野 裕道(旧姓:西村) (浜松西高 46回卒)

EVENT STAFF  
イベントプロデュース

浜松市中央区頭陀寺町304-3  
☎053-464-0650  
代表取締役:寺田 弘蔵

HUMAN ARROW  
戦略的人材プロデュース  
株式会社ヒューマンアロー  
一般社団法人  
静岡就労支援センター

浜松市中央区鍛冶町124 マルヒビル4F  
☎090-1412-0783  
代表:坂神 文仁

FORCE EYE

株式会社 フォース・アイ

株式会社 レンダー商会  
https://event-render.com

浜松市中央区佐藤1-31-8  
☎053-462-0682  
代表取締役社長 石津 利昭